

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	児童デイサービスわんぼ		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月1日		令和7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日		令和7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

分

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな支援プログラムを計画・工夫しながら、児童一人ひとりの強みや課題に応じた、個別的かつ総合的な支援を実施していること	曜日ごとに多様な教室活動を取り入れ、「1回チャレンジ」「一口・一切れチャレンジ」を合言葉に、苦手なことや初めてのことに前向きに取り組んでいます。未経験の食材にも挑戦するなど、個々の経験が広がる活動となるように心がけています。	プログラミング等、将来を見据えたシステムの導入を検討しています。
2	ホームページ、Instagram、LINEを活用した情報の発信を活性に行っていること	各種支援プログラムや行事の内容を積極的に発信し、児童や保護者へ支援内容を周知するとともに、不特定多数の方々にも認知してもらえるよう努めています。	より充実した支援プログラムの作成に向けて工夫を重ね、支援の質を高めることで信頼の向上につなげていきます。
3	事業所所在地の町内会および南平岸商店街振興組合に加盟し、近隣地域の関係機関との連携を図っていること	近隣地域の関係機関が主催する行事に積極的に参加し、スタッフとしての関わりも意識して取り組んでいます。	事業所開放行事を企画し、近隣地域の方々を招待することで、より一層の連携強化を目指しています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングの体制が確立していないこと	保護者とさまざまな相談や意見交換は行えているものの、ペアレントトレーニングについては専門知識を持った職員がおらず、体系的な知識や技術が十分とはいえない状況にあります。	情報収集や研修等への参加を通じて知識・技術の習得を図り、より効果的なペアレントトレーニングの仕組みを導入していきます。
2	近隣地域の関係機関との連携は進んでいる一方で、幼稚園・保育園・学校等との連携は限定的になっていること	幼稚園・保育園・学校等とやり取りできる機会が少ないため、連携が限定的になってしまっています。	幼稚園・保育園・学校と定期的に情報交換ができる場(連絡会・オンライン面談・書面での情報共有など)を設け、児童の様子や支援方針を継続的に共有できる体制を整えていきます。
3	第三者による外部評価とのつながりが弱いこと	比較的高額な評価機関が多く、継続して利用することが難しい状況にあります。	札幌市からの助言や指導を受けながら、外部評価との連携について検討していきます。